

(2) 講 評

○委員長 それでは、先生方と講評といたしますか、内容について確認をさせていただきました。

まず、先に結論から申し上げますと、きょう2つ御提案がありましたテーマにつきましては進めていただきたいということで、結論としてはそういう結果になりました。

まず、1番目の迅速・高精度なGNSS定常解析システムのほうですけれども、非常に野心的なプロジェクトであるということで進めていただきたいということですが、国土地理院という性格上、位置情報を正確に出すことがアウトプットとして国民の皆さんに提供されているわけですけれども、こういう時代にだんだんできて、地理院側でせっかくアウトプットを正確に出されるのはいいんですが、その手法であるとか解析の方法であるとか、そういうものも公表をしていくべきではないか。例えば、完成したソフトウェアをどんどん使っていただくようにするとか、内部的に研究テーマとして研究をされるのはいいんですけれども、アウトプットとして結果だけを出すのではなくて、そのプロセスだとか開発したソフトウェアだとか、著作権の問題とかもありますので、難しいところもあるのかもしれませんが、そういうものも将来的には出して行っていただきたいというお話です。

それともう1つは、現状においても、F3とか、あるいはR3のデータは出しておられるわけですが、先ほどコメントというか、質問の中でもさせていただきましたが、将来的には、どんどんリアルタイムで精度のいいものが出てくる。そうすると、極論を言いますと、F3というものはもうなくなってもいい時代になってくるかもしれない。そうすると、ユーザー側がいろいろなデータが出てくるときに、必ずしも専門家ばかりが使っているわけではないので、それを出すときに、どういうユーザーが、どういう目的でそれぞれの解を使うのか。こういうようなものもきちんとあわせてデータ提供をしていく。そういう仕組みを考えて行っていただきたいということでございました。

もう1つの浸水状況把握のリアルタイム化に関する研究ですが、これは国土交通省の中での利用を前提ということですが、防災ヘリが出動するかしないかということがこの研究テーマの非常に大きなネックになるというか、利点でもあり、ネックでもあるのだらうと思うんです。そういう意味で、国交省内でのせっかく作ったデータを、それぞれ自治体なりいろいろなところに提供していけばいいとは思いますが、残念ながら常総のような場合を見ても、うまく連携していなかったのではないかと先生方からの御

意見がたくさんありました。そういう意味では、きちんと作った、あるいは判定したデータが有効に使えるような、国交省内での仕組みというものを作っていくべきではないかなということです。

それと、整備局がヘリコプターを出しているわけですが、整備局は、地理院と違って研究的に何かをやることは難しいんじゃないかな。実態を把握し、速く情報を出すことが整備局の仕事であり、地理院側はもちろん情報を出すこともそうですけれども、今のよう、研究することもあわせ持つ機関でありますので、確かに壁はあるのだろーと思えますが、先ほど言った、なるべく国交省内でのそういう議論を深めて、有効なデータは整備局側にも説得をして、いろいろヘリコプターの飛ばし方であるとかデータの使い方、そういうものを相互協力してやっていただきたいなということ。

それから、気象データのことを先ほどお話ししたんですが、これもシミュレーションになるからなかなか難しいんじゃないかというお話だったと思うんです。確かにシミュレーションではあるのかもしれませんが、せつかく浸水状況の現状把握をする意味においては気象データも、ある意味シミュレーションに近いかもしれませんが、有効に活用をしていただくようにしたほうがよろしいのではないのでしょうかということでした。

それと、研究内容の絞り込みと申しますか、救助活動に使うのか、あるいは状況把握なのか、避難誘導なのか、こういうところが明確に今の資料からだけでは見えないので、そういうものをきちんと絞り込んだ上で研究を進めていくことも必要ではないだろうかなという御意見がございました。

いずれにしましても、この2つの課題については、それぞれの年月日がありますけれども、目標に向かって進めていっていただきたいという結論でございました。

先生方、先ほど意見がたくさん出ていたので、私がまとまり切れていないところがあるかもしれないですけども、何か補足はございましたら、していただければと思います。よろしいでしょうか。

それでは、私からの講評は以上にさせていただきます。